

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 46

### 「人工ダム」と「緑のダム」との協働

高知県 いの町長

しおた はじめ  
塩田 始



いの町は、高知県のほぼ中央部に位置する緑豊かな清流の町です。町の中央部から南部にかけて、全国でも屈指の透明度を誇る清流仁淀川とその支流が流れ、一方北部には四国第一の河川である四国三郎吉野川の源流があり、四国を代表する二本の大河川を抱えています。

仁淀川流域には、「加田キャンプ場」や「波川親水公園」などの良好な親水空間が広がっています。また、5月には土佐和紙で作った「紙のこいのぼり」を川に泳がせるイベントを毎年開催し、訪れる多くの人々に癒しを与えてきました。

しかし、それと同時に、台風の常襲地帯に位置する仁淀川は、これまでに幾度となく流域の農地や家屋に深刻な浸水被害をもたらし、人々に恐怖も与え続けてきました。

こういった被害を軽減させるために、大渡ダムで流入する水を一時的に貯め、放流量を減らすといった洪水調節を行い、大いなる効果を発揮しています。平成16年に四国に上陸した6個の台風のうち多くの被害をもたらした10月21日の台風23

号時には、伊野地点で約0.3m、越知地点では約1.0mもの水位を低下させております。また、伊野地点で戦後3番目のピーク水位を記録した、平成17年9月6日の台風14号時においても、伊野地点で約0.3m、越知地点で約1.0mの水位を低下させ、常時浸水地域である枝川地区をはじめ、町内の浸水被害を軽減させました。

そして、更なる効果を期待して、この「人工ダム」と連携させるように、いの町では「緑のダム」づくりを促進しています。緑のダム構想は、山に降った雨ができるだけ多く地下に浸透し、長い間山にとどまっている状態を保つものです。間伐の遅れている森林の整備を行うことで、降雨のもらす水は少しずつ山から谷川、そして河川へ流出し、また、豪雨時と渇水時の水量を平準化させ、吉野川や仁淀川へ水資源を安定的に供給できると考えています。

いの町としては、今後も、この2つのダムの協働に努めていきたいと考えております。



紙のこいのぼり



ダイワ鮎オープン



加田キャンプ場



宇治川浸水